

天井埋込形4方向吹出 据付工事説明書

PJF012D053
201904

本説明書は、室内ユニットの据付け方を記載しております。
電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取り付け方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスリモコンの取り付け方法は、ワイヤレスリモコン付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付け方法は、電気配線（室外ユニット）及び冷暖配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障時対応は、室内ユニットの取扱説明書をご覧ください。
本室内ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

安全上のご注意

- 据付け工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みの上確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【A】警告**、**【B】注意**に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大いにあるものを特に**【A】警告**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【B】注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「記号」の意味は右のとおりです。**【A】絶対に行わない** **【B】必ず指示に従い行う**
- 据付け工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法、お取り扱い方法、エアフィルターの清掃・運転操作の仕方、温度調節の方法などをお客様に説明してください。
この据付け説明書は取扱説明書と共にお客様に保管いただくようにお渡ししています。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

△警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付け工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付け工事は、この取扱説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 小部屋に据付けられる場合は、冷暖配管を越えなければならない。 (JRA GL-13)
境界線を越えたい対象については、販売店と相談して適切な「ガ」冷暖配管を越えなければならないと断水事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
指定の部品を使用しない、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 作業中に冷暖配管が破損する場合は、速に修理する。
冷暖配管が破損すると有害ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
- 自衛などの理由、断電に備え、所定の据付け工事を行う。
据付け工事に不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの設置や移動の場合、冷暖サイクル内に指定冷暖以外の空気を入れない。
空気が入ると室内ユニットが異常高圧になり、破裂、火災などの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内規線図」及び据付け説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの力がかからないように固定する。
接続が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取り付け。
カバーの取り付けが不備な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付け工事完了後、冷暖配管が漏れていないことを確認する。
冷暖配管が室内に漏れ、ファレヒュー、ストロー、コンロなどの火気に触れると有害ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。
圧縮機 (R22) の配管は R32 用の配管と異なり、冷暖サイクルの破損などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締める。
フレアナットの締め過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- ドレン配管パイプの系が水等の発生する排水溝に直接入れない。
排水溝に水が浸入し、中身の乾燥不足による発熱があります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- ドレン配管作業は配管を配管する前に確実に冷媒配管を接続する。
冷暖配管を接続してから、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷暖サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取り付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対に行わない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に依頼する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電および火災の原因になります。
- ガスやガスを配管する場合は、必ず配管の全長を、燃焼ガスに接続する。燃焼ガスに接続しない場合は、燃焼ガスが漏れ、感電、火災などの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

1

①据付け前に

- 据付けはこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
 - 機種・電源仕様
 - 配管・配線・小物部品
 - 付属品

付属品

| 室内ユニット吊込み用 | | | | 冷暖配管用 | | | | ドレン配管用 | | | |
|------------|------------------------|------------|------------|--------|------------|------------|----------|------------|----------|----|----|
| 平座金 (M10) | レベルゲージ及び平座金固定用 | パイプカバー (大) | パイプカバー (小) | バンド | パイプカバー (大) | パイプカバー (小) | ドレンホース | ホースクランプ | 抗菌材 | | |
| 8個 | 1個 | 1個 | 1個 | 4本 | 1個 | 1個 | 1個 | 1個 | 1個 | 1個 | 1個 |
| 吊りボルト用 | 室内ユニットの位置調整及び吊り込み時の補助用 | ガス管断熱用 | 液管断熱用 | パイプ固定用 | ドレンソケット断熱用 | ドレンソケット断熱用 | ドレン配管接続用 | ドレンホース取付け用 | ドレンパン防汚用 | | |

②室内ユニットの据付け場所の選定

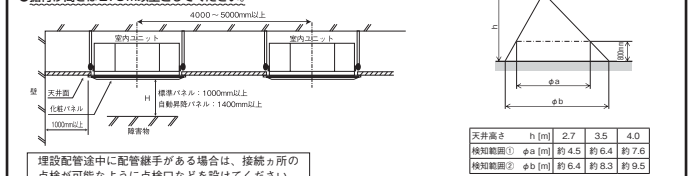
- ①据付け場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - ・冷暖気は温度が十分に行きわたる所。
 - ・冷暖気高さが3mを超えると暖気が天井にこもりやすいため、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - ・据付け・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度28℃以下、相対湿度80%以下の所。
- 本室内ユニットはJIS露点条件(室内27℃/85%RH、天井裏:32℃/80%RH)にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高温多湿気の状態では運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性のある場合は、室内ユニットの全長および配管、ドレン配管に50～200mmの断熱材を取付けてください。
- ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が発生することがあります)
- ・室内ユニット真下に食品、食器やパソコン、サーバー、医療機器など置くのを避けてください。
- ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
- ・フレイヤーの真上など油・粉・灰などを直接吸込まない所。
- ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。

ワイヤレスリモコンの場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。

- ②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われる板、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- ③ワイヤレスリモコンを2台以上据付けの場合は、通信による誤動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。
- ④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を4～5m以上離して設置してください。

室内ユニット据付けスペース

- 室内ユニット1台、室内ユニット間、室内ユニット間など、間隔がとれない場合は、それぞれの間隔を適宜確保してください。
- 据付け高さは2.5m以上とってください。



吹出パターンを設定

- 部屋の形や据付け位置に最適な吹出方向を4方向・3方向・2方向から選定してください。(1方向ではできません。)
- 吹出口数を変更する場合は、別売の通風材を手配してください。
- 2方向・3方向吹出の場合は風量「弱」での使用は避けてください。
- 高温・多湿環境での2方向吹出は行わないでください。(結露・水漏れの原因になります。)
- 吹出口の上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

3

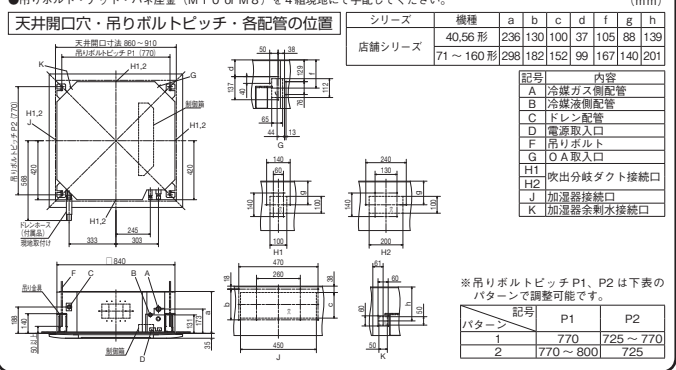
△注意

- アース(接地)を確実に行う。
アースは、ガス配管、水道管、排水管、配管、電話のアース線に接続しないでください。アース(接地)が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 漏電遮断器は必ず取り付ける。
漏電遮断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全自動遮断するブレーカ(漏電遮断器・手元開閉器(開閉器+B極にフーズ)・配線遮断器)を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のフーズを使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れがある場所への設置は行わない。
ガスが漏れやすい場所への設置は行わないでください。
- 可燃性ガス(ガスボンベなど)、可燃性ガス(シンナー、ガソリンなど)の発生、滞留の可能性のある所、排気引火物を取扱う所の据付けは、使用は行わない。
無火の燃焼、プラスチック製品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは火災の原因になることがあります。
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの距離によるケガの原因になることがあります。
- 洗濯槽など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 食品・飲料物・精密機器・美術品の保管など特殊用途には使用しない。
保存性の低い食品などへの感電や火災の原因になることがあります。
- 病院、診療所、介護施設などでの電磁波を発生する機器、電磁波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤動作や故障の原因になり、エアコン側から医療機器に影響を与え人体の健康行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。
- 直射日光の当たる場所には据付けを避ける。
エアコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所への据付けは避ける。
 - ・可燃性ガスの漏れがある場所
 - ・燃焼の煙がかかる所
 - ・可燃性ガス・燃焼ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
 - ・機械に接触する可能性がある所
 - ・油の飛沫や蒸気が多い所(調理場、機械工場など)
 - ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
 - ・乾燥剤を使用する機械を使用する所
 - ・精密の多い所
 - ・海や塩害等が及ぶ所性能を著しく低下させたり、部品が高熱、破損しやすくなる原因になることがあります。
- 次の場所への室内ユニットの据付けは避ける。(機種により異なる制限があるため、その指示に従ってください)。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
 - ・強度が不足で振動が伝わる所
 - ・ワイヤレスリモコンの場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
 - ・高周波に影響を受ける機器のある所(TVおよびラジオ等の近傍)
 - ・ドレンの排水がとれない所性能や機能等に悪影響をおよぼす原因になります。
- 室内ユニットの下部は、濡れて困るものは置かない。
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。
- 長期使用で雨などによる室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
また状態が劣化した室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
- 室内ユニット近くで修繕作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスリットの進入を防止する。
室内ユニットが落下する可能性がある場合は、室内ユニットに足場(ベンチ)をたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニットへのスリットの進入を防ぐため適切な状態のままでおくか、覆いなどでより安全にカバーしてください。
- ドレン排水は、据付け説明書に従って確実に排水するように配管する。
不慮な場合、排水が滞り、臭気などを発生させる原因になることがあります。
- GHP(ガスポンプ)の配管は、室内ユニットの排水ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内ユニットが浸入し、中毒や感電などの原因になることがあります。
- 冷暖配管工事終了後は配管が漏れ、冷媒漏れを確認し、漏れのないことを確認してください。
ガス、臭気、火災の原因になることがあります。
- ドレン配管は排水パイプの径(1/100以上)とし、途中にU字トラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に流れていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
不完全な断熱材は、断熱材と断熱材が接触し、腐食などの原因になることがあります。
- 室内ユニットは、小動物のすきになるような場所には設置しない。
室内ユニットが侵入し、内部の電気部品に触れると、故障や発熱、火災の原因になることがあります。また、お客様に周辺に害を及ぼす原因になることがあります。
- 製品の運搬は十分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。
素手やフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実にする。
梱包材にケガなどの金属あるいは、木片などを使用していますので設置状態にしますとケガをすることがあります。
- フィラリアを駆除する場合は、必ず駆除剤を室内ユニットの内部に塗布し、設置の理由になることがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷暖配管を素手で触れない。
運転中の冷暖配管は低温・高温の状態になり、素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
- エアコンを水浸ししない。
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってから電源を切ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止しない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

2

③据付け準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井(グリッド天井・ライン天井)の場合
吊り長さ(吊りボルト長さ)500mm以上又は天井高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
強度が十分にない天井に設置する場合は直接スラックから吊り下げる場合
吊り長さ(吊りボルト長さ)500mm以上又は天井高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
- 吊りボルト・ナット・パナネ金(M10 or M8)を4組現地で手配してください。



④室内ユニットの据付け

- 作業手順
1. 上側ナットは、天井面より50mm程度とってください。
2. 吊りボルトの下側ナット(4ヶ所)は、天井面から150mm程度に固定してください。
3. 吊りボルトの上側ナット(4ヶ所)は、室内ユニット吊り込み及び高さ調整時に調整の要がなく、下側ナットから十分距離を取った位置に固定してください。
4. 吊りボルトの上側ナットと上側座金(各4ヶ所)を下側ナットから十分に距離をとった状態で、座金(座金固定材※1)を吊りボルトに挿しこんでください。上側座金(座金固定材※1)を挿しこんでください。
5. 室内ユニットを吊り込んでください。
6. 室内ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージ※2を室内ユニットの吹出口に取り付け、付属のレベルゲージ※2を調整してください。高さ調整は上側ナット(4ヶ所)を緩めた状態で、下側ナット(4ヶ所)で調整してください。室内ユニット吊り込み後、下側ナット、平座金を十分に緩めたことを確認してください。
7. 座金(座金固定材※1)を取出してください。
8. 室内ユニットの水平を確認してください。水平度は水準器または調水平線を天井面に入れたものを使用してください。
(室内ユニットの高さの測定範囲は3mm以内です)
9. 吊りボルトの上側ナット(4ヶ所)を締めてください。
- 室内ユニットの養生
●パネルをしぼるの開口取付けられない場合、または室内ユニットを据付け後にパネルを貼る場合は、梱包材(天面ダンボール)を使用して、室内ユニットを養生してください。
- 室内ユニット据付け時のお願
●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが据付けできなかったり、ファン故障が発生することがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付け、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●パネルを据付け後、室内ユニットの高さの調整ができません。詳細はパネルの据付け説明書をご覧ください。
●パネルと天井面、およびパネルと室内ユニットとの接合部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

裏面つづく

⑤ 冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2 種適合品をご使用ください。既設配管修理時の汚害及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。
- 1) 再使用する場合、フレアナットは用途せず室内ユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2 種適合品を使用してください。
- 2) 再使用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。

| 配管径 φ mm | 配管の 最小肉厚 mm | フレア加工 出し寸法 mm リジッド (クラッチ式) R32 用 R410A 用 | 従来ツール | フレア外径 D mm | フレアナット 締付けトルク N・m |
|----------------|-------------------|---|-----------|------------------|-------------------------|
| 6.35 | 0.8 | | | 8.9 ~ 9.1 | 14 ~ 18 |
| 9.52 | 0.8 | | | 12.8 ~ 13.2 | 34 ~ 42 |
| 12.7 | 0.8 | 0 ~ 0.5 | 0.7 ~ 1.3 | 16.2 ~ 16.6 | 49 ~ 61 |
| 15.88 | 1 | | | 19.3 ~ 19.7 | 68 ~ 82 |
| 19.05 | 1.2 | | | 23.6 ~ 24.0 | 100 ~ 120 |

- 冷媒配管は、リン酸銅合金銀目無銅管 (C1220T, JIS H 3300) をご使用ください。また管の外表面は美観であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- 指定冷媒以外は使用しないでください。指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端とろう付けする直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具は R 32 用または R 410A 用の工具を使用してください。

作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取出す。
室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)
- 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げおしを行わないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3〜4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで最終締め付けを行ってください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けしてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないことと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
●高温高圧配管で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
- 断熱は室外ユニットに完結します。
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

⑥ ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。不備な場合、室内に浸水し、配管等を腐らす原因になります。
- ドレン配管は、イオウ系ガスなど有害ガス及び可能性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可能性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏などの原因があります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起きないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンの排水確認を行っていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下勾配1/100以上とし、途中山越えやトラップを設けないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。

試運転時にドレン排水が確実に実行されていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

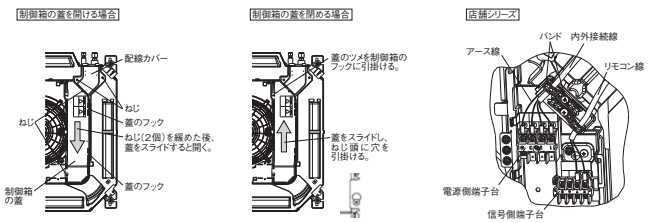
⑥ ドレン配管のつづき

ドレンポンプ運転方法

- 電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。運転操作方は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。
- 電源が供給されない場合
室内ユニット基板のSW1-1をONにし、かつ、基板上のコンタクトCNBを抜いた後、電源ON(端子台①、②・AC220V)のみで連続運転します。ドレン排水確認後は、必ずSW7-1を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上のコンタクトCNBを差し込んでください。
- 電源が供給されない場合
ドレンポンプ試運転用チェッカー(別売)でドレンポンプを運転することが可能です。操作方はドレンポンプ試運転チェックに付属の取扱説明書をご覧ください。

⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」(内線規程)及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- 配線後、断熱工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。



⑧ 抗菌剤の取付け

- 付属の抗菌剤ケースをドレンパン内に取付けてください。抗菌剤ケースの中に抗菌剤は入っています。
- 抗菌剤ケースの取付けは室内ユニットを吊った後に実施してはなりません。室内ユニットが天地逆では取付けられません。

- 作業手順** (付属抗菌剤の交換目安: 冷房1シーズン)
- 抗菌剤用蓋のねじ(1個)を取出し、抗菌剤用蓋を取り外してください。
 - 取出し口から抗菌剤を取り付けてください。抗菌剤ケースのフックの奥まで、ドレンパンが達するように取付けてください。
 - 抗菌剤用蓋を取付けてください。風漏れや異常音の原因となります。

⑨ パネルの取付け

- パネルは、電気配線工事後に、室内ユニットに取付けてください。
- パネルの取付け方法は、パネル付属の据付説明書をご覧ください。

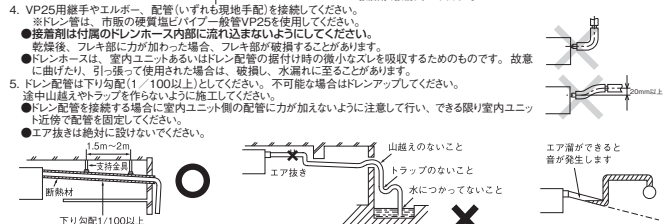
⑩ 室内ユニット据付け工事後のチェック項目

| チェック項目 | 不良など… | チェック欄 |
|-------------------------|----------|-------|
| 室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。 | 落下、振動、騒音 | |
| ガス漏れ検査は行いましたか。 | 冷えない | |
| 断熱は完全に行いましたか。 | 水漏れ | |
| ドレン排水はスエースに流れていますか。 | 水漏れ | |
| 電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。 | 運転不能・焼損 | |

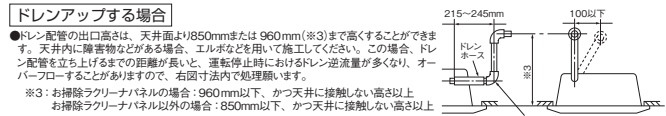
⑥ ドレン配管

作業手順

- 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ソケットの段差部まで確実に挿入してください。その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボールが鉛直方向になるようにしてください。
- 接着剤使用不可
ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締め付けてください。
- ねじを複数回転させて締め付けが固くなる位置まで締め付け、それ以上締め付けないでください。



- VP25用標準工法より、配管(いずれも現地手配)を接続してください。
●断熱材は、市販の硬質ポリイソシアネートフォーム(PP25)を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の接続時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引いたりして使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
- ドレン配管は下勾配(1/100以上)としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。
途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
- ドレン配管を接続する場合は室内ユニット側の配管に力加えないように注意を行い、できる限り室内ユニット近接部は絶対に設けないでください。



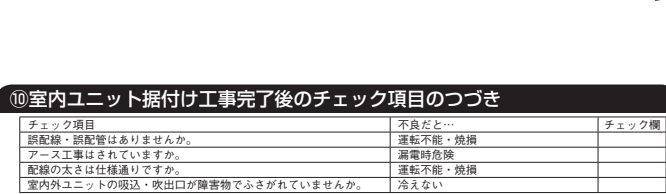
- 複数の場合のドレン配管の場合、室内ユニット排水出口より約100mm以上に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はVP30以上を使用してください。

ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より850mmまたは960mm(※3)まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長い、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図注法内で処理願います。



- ドレン排水工事後に、排水が確実に実行されていることを、接続部および室内ユニットのドレンパンから水漏れのないことを確認してください。また、ドレンポンプのモーター音に異常がないことも確認してください。
- 断熱工事は、断熱材の厚さに必ず準拠してください。
- 断熱材の場合には天井を破る前に実施してください。



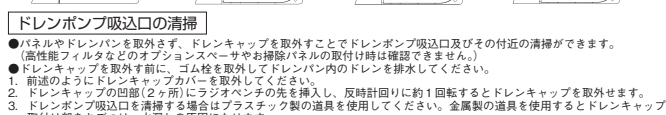
⑩ 室内ユニット据付け工事後のチェック項目のつづき

| チェック項目 | 不良など… | チェック欄 |
|--------------------------------|---------|-------|
| 部配線・部配管はありませんか。 | 運転不能・焼損 | |
| アース工事はされていますか。 | 運転不能・焼損 | |
| 配線の太さは仕様通りですか。 | 運転不能・焼損 | |
| 室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。 | 冷えない | |

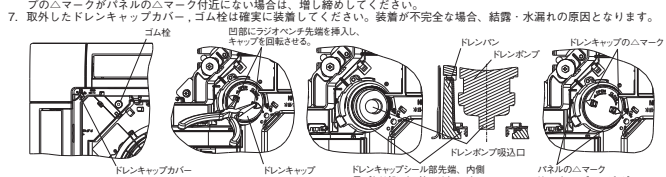
⑩ ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃 (メンテナンス)

ドレンパン汚れ確認方法

- パネルを取らずに、ドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口の状況を確認できます。
- (高性能フィルタなどのオプションスペースやお掃除パネルの取付け時は確認できません。)
- 1. パネル吸込グリルを開け、ドレンポンプ側のパネルコーナーリットを取出してください。
- 2. パネルコーナーリットを取出してください。
- 3. ドレンパンからドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口を確認してください。汚れが多い場合はドレンパンを取出し、清掃してください。
- 4. 取出したドレンパンカバーは確実に装着してください。



- ドレンポンプ吸込口の清掃
●パネルやドレンパンを取らず、ドレンパンを取り出すことでドレンポンプ吸込口及びその付近の清掃ができます。(高性能フィルタなどのオプションスペースやお掃除パネルの取付け時は確認できません。)
- ドレンパンを取り出す前に、ゴム栓を取出してドレンパン内のドレンを排水してください。
- 1. 前述のようにドレンパンを取り出す前に、ゴム栓を取出してドレンパン内のドレンを排水してください。
- 2. ドレンパンの凹部(2ヶ所)にラジオペンチの先を挿入し、反時計回りに約1回転させ、ドレンパンを取り出します。
- 3. ドレンポンプ吸込口を清掃する場合はプラスチック製の道具を使用してください。金属製の道具を使用するとドレンパンの取付け部をキズつけ、水漏れの原因になります。
- 4. ドレンパンを取り出す前に、流水で洗い、ドレンパン内側の異物を取り除いてください。異物が付着したままドレンパンを取り付けると水漏れの原因になります。
- 5. ドレンパンの取付けは、ラジオペンチでドレンパンの凹部を使用して取付けてください。時計回りに約1回転させ、キャップが回転しなくなるまで締め付けてください。キャップが1回転以上回転しない場合は正しく取付けられていません。一度、ドレンパンを取り出し、改めて取付け直してください。
- 6. ドレンパンの取付け後、ドレンパンの凹部がドレンパンの凹部に近接していることを確認してください。ドレンパンの凹部がドレンパンの凹部に近接していない場合は、差し込み直してください。
- 7. 取出したドレンパンカバー、ゴム栓は確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンパン取外し時の注意事項

- ドレンパンを取外す前に、ドレンパン内のドレンを排水してください。ゴム栓を取り出して排水してください。
- ドレンパンの仮止めプレートで仮止めされています。ドレンパンの取外し(2箇所)を取出し、仮止めプレートのねじ(2箇所)を緩めてください。
- ドレンパンの取外し時は、仮止めプレートの内側にスライドし、ドレンパンを仮止めます。その後、ドレンパンの取外し(2箇所)を緩めてください。また、取出したゴム栓は確実に取付けてください。

